

つかこうへいと筑豊研究会

No.2

発行：筑ゼミ「つかこうへいと筑豊研究会」
発行日：平成29年10月10日
お問合せ：090-4474-8051（池田まで）

●七月九日(日)しのぶ会開催

「つかこうへい」の八回忌に集う

2010年7月10日はつかこうへいの8回忌にあたり、昨年が続いて7月9日に「しのぶ会(すかぶら忌)」を、嘉麻市の善照寺で開催した。

その前日まで、北部九州は豪雨に襲われ、甚大な被害をうけた朝倉市は、嘉麻市に隣接しており、交通手段が寸断された中を、つかファンや有志が各地から駆けつけてくださり、つか氏を偲び、語り合った。

●「日本の芝居を変えた男」

つかこうへいは筑豊育ち

つかこうへいは1948(昭和23)年、福岡県は嘉穂郡嘉穂町(現嘉麻市)に生まれ、育った。

大隈小・中学校を経て、山田高校(平成19年廃校)に入学。

中学生の頃には夏目漱石や森鷗外の名作を読破し、読書感想文でヘルマン・ヘッセの『車輪の下』で県一位となったと、自作経歴の中で書いている。

◆高校の恩師が語る

つかこうへい像

それを裏付ける話として、高校の恩師で、英語教師だった永吉博義先生は、つか氏がチェホフやトルストイ、ドストエフスキーなどロシア文学をはじめ、ニーチエ、カントなど哲学書からマルクス・エンゲルスの『共産党宣言』など、海外のあらゆる分野の本を読破したと「豪語」していた姿を覚えておられ、「当時、教師も読まないような難しい本を彼は読んでいたので、ビックリした」と語られた。

永吉先生は、また当時、進路指導の担当もされており、つか氏のお父さんは医者を目指されていて、つか氏は相当地に進路で悩んでいたという。担任の教師を含め教師三人で真剣に相談に乗った日々のことを鮮明に覚えておられた。

また当時の山高の演劇部は全国大会で毎年優勝するほどだったが、つかこうへい氏は、「糞くらえのリアリズム」といって、演劇には全く興味がない様子だったという。

そんなつか氏が4、5年後には東京で、「演劇界の風雲児」と言われるまでに演劇にのめり込むようになって

たのか、その経緯が興味深い。

◆魂を揺さぶられたつか芝居

佐賀から駆けつけて下さった、秦忠弘さんは、高校生の時に、演劇界の話題を総なめにしていた頃、つか氏と出会った。

「つかさんが『つかこうへい劇団』を解散する1982年の全盛期のつか芝居にギリギリ間に合った一人」と語る。つか芝居を東京・紀伊國屋ホールでの『熱海殺人事件』(出演・風間杜夫、平田満、加藤健一、岡本麗)、そして解散公演『蒲田行進曲』(出演・風間杜夫、平田満、根岸季衣)に立ち会うことが出来た。

新聞記者として10年経った時に、奇しくも、つかさんが東京都北区とともに立ち上げた「北区つかこうへい劇団」を取材することになり、以来つか氏の担当となった。

「つかさんの芝居には、ガツンとショックを受け、魂をゆさぶられる芝居だった」と語られた。

つか芝居を初めて観劇した人の多くが、それまでの見慣れた商業演劇とは全く異なる、舞台装置もない薄暗い舞台に俳優たちが体を張って演

じる言葉に魂を揺さぶられ、強烈な印象と共に、観衆はつか芝居の魔力の虜になる。

演劇界でいつか「つか以前つか以後」とまで言われるようになり、名実ともにつか芝居が世間に認められたのだ。

福岡に転動していた秦さんは、つか氏が病床で演出された『飛龍伝2 010・ラストプリンセス』(主演・黒木メイサ)をアクロス福岡で観ることができた。つかさんが亡くなった時には筑豊を駆け回り取材。「つかこうへいと九州」という記事を3回にわたりに連載。「つかこうへいとは何だったのか?」をテーマにこれからも取材を続けたいと語られた。

◆芝居の概念が吹っ飛んだ

ピクニックの武藤たつきさんとつかさんの出会いは、つかさんが41歳で演劇活動を復活された1989年に『今日子』(主演・岸田今日子)を見たことがきっかけだった。その時に上演された『幕末純情伝』(出演・平栗あつみ、西岡徳間)の予告編に衝撃を受けた。それまでの芝居の概念が吹っ飛ばされ、強烈に心に残ったとい

う。「頭の良い天才肌の演出家であるという印象を持った」と語られた。

その後1994年、ピクニック主催で初演された『蒲田行進曲完結編・銀ちゃんが逝く』(出演・山崎銀之丞、平栗あつみ)は1ヶ月の稽古を福岡市内で行い、ゲネプロ(最終の通し稽古)時に3時間45分の上演時間であつたが、長すぎるということ、3時間にした。役者に「切った部分を必ずどこかでやるから」と詫びを入れたという内輪話も披露。

「つかさんの稽古に立ち会って凄いと思ったのは、せりふがつかさんの頭に全て入っていたこと」と当時を振り返った。稽古はぶっ続けで6時間する強行なもので、役者もスタッフも真剣で、緊張していた。「その緊張感がつか芝居を作った」ともいえる。

「ピクニックが今があるのは、つかさんのおかげ。つかさんとの出会いが無ければ、舞台興業の仕事はしていない」と語られたのが印象的だった。

◆◆◆◆◆

★来年4月24日は

つかこうへい生誕70周年

来年4月24日は、つかこうへいの

生誕70周年だ。筑豊が生んだ演劇界、文化に多大な影響を遺した劇作家つかこうへい氏の偉業を讃え、

「つかこうへいと筑豊研究会」では生誕70周年を計画中である。

お父さんに沢山の本を与えられ、つか氏は幼少期から本に囲まれた生活で、あらゆるジャンルの本を読破。筑豊独特の芝居小屋で芝居を楽しみ、文化を身に付けたのであろう。

今の筑豊にはあの頃の文化がない。子ども達に、本物の文化に触れられる環境を、機会を作るきっかけに上げるような「つかこうへい生誕70周年」として取り組みたい。皆様のご意見、ご協力をお待ちしています。

★10月定例会のお知らせ

▼日時 10月15日(日)

13時30分〜

▼場所 善照寺

(嘉麻市上西郷590番地)

☎0948(57)0645

つか作品(文学、エッセイ、映画、公演を鑑賞した感想など)を語る。

★10月以降の定例会の日程

▼12月17日(日)

時間 13時30分〜

▼2018年

2月11日(日)

時間 13時30分〜

▼4月は生誕70周年記念

日程、場所、内容は未定。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

【お知らせ】

株式会社エアクレレン様より「つかこうへい」全集をご寄附いただきました。会では活用方法を検討し、ご報告いたします。ありがとうございました。



つかこうへいの8回忌の参加者